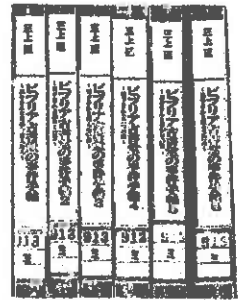


読書を楽しむ!

『ピブリア古書堂の事件手帖』①～⑥

三上 延 著 (メディアワークス文庫)

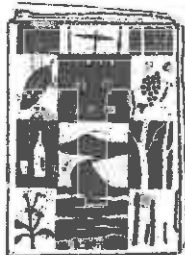


本校生徒にも人気の『ピブリア古書堂の事件簿』シリーズ。舞台は鎌倉の片隅にある古書店。店を訪れるのは奇妙な客ばかりです。そして、持ち込まれるのは古書ではなく、謎と秘密……。それを鮮やかに説き明かすのはピブリア古書堂の美しい女店主・葉子(しおりこ)。持ち込まれる謎と秘密のすべては「本」の中に隠されています。それぞれの謎がどのように本と繋がっていくのかが、このシリーズのおもしろさです。

このシリーズをより楽しむために、モチーフとなっている本も併せて読むことをお勧めします。ますます『ピブリア古書堂の事件簿』のおもしろさが深まるはず。モチーフとなった本を読んで、あなたも店主の葉子といっしょに謎解きにチャレンジしてみませんか。

～モチーフとなった本～

*最初に登場するのは『漱石全集・新装版』(岩波書店)。全集に漱石直筆らしきサインが……。果たして、そのサインは本物?サインが書かれていたのは『それから』です。漱石の前期三部作のひとつで、裕福な生活を送る長井代助が、友人の妻で、学生時代に思いを寄せていた三千代と生きていくことを決めるまでを描いた作品です。



*太宰治の作品も三つ登場します。太宰が遺書のもつりで書いたといわれる『晩年』は第一巻と第六巻に登場します。太宰のデビュー作であり、完成度の高い短編集です。そして『忘れメロス』。太宰が精神的にも経済的にも安定していた時期に書かれた作品で、信頼と友情がテーマとなっています。『隠しめし』は聖書の中のキリストとユダの関係を題材にしたもので、太宰自身の悲しみが込められた作品と言われています。果たして太宰治の作品に隠された謎とは……。実は、作者の三上さんは太宰治のファンなのかもしれませんね。

*ピブリア古書堂には、宮沢賢治の『春と修羅』、寺山修司の『われに五月を』に関する謎解きも持ち込まれます。宮沢賢治の詩集『春と修羅』には、妹トシとの別れを綴った「永訣の朝」も納められています。賢治の心の叫びが聞こえてきそうな詩集です。『われに五月を』は詩・俳句・戯曲など寺山修司の全てを凝縮したような本です。才能あふれる寺山修司の言葉がとても新鮮です。この二冊に隠された謎を葉子店長とともに解決してみましよう。

12月の貸出統計 269冊 (11月の貸出冊数 425冊)

学年	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	6	11	6	15	1	4	19	32	16	14	4	5	31	4	1	19	0	3	1	9	37	7	13	11
合計	94冊								94冊								81冊							

モンゴルの本

「モンゴル」と言えば何を思い浮かべますか。草原、羊、チンギス・ハーン・・・そして相撲。確かに最近の相撲人氣は、モンゴル出身力士の活躍のおかげかもしれません。話題の力士・逸ノ城もモンゴル出身です。モンゴルの草原で羊や馬を飼っている遊牧民の子どもとして生まれ、子どもの頃から草原を走りまわっていたそうです。幼いとき、家の手伝いで遠く離れた井戸から水を運ぶ仕事は辛かった・・・と語っていました。大らかで優しく、そして何より強い力士たちが育ったモンゴルとはどんな国なのでしょう。

＊『スーホの白い馬』大塚 真三 挿画

猿羽 末吉 画 (福音館書店)



モンゴルに伝わる楽器「馬頭琴」の由来にまつわる絵本です。小学2年生の国語の教科書にも掲載されたモンゴル民話です。モンゴルに住む貧しい羊飼いの少年スーホはある日、生まれたばかりの白い馬を見つけ、家に持ち帰りました。スーホは大切に子馬の世話をしました。子馬はだれもが見とれるほどの馬に成長しました。しかし、大切に大切に育てたスーホの白い馬には哀しい出来事が待ちました。高校生の私たちが読んでも心に何かのこる絵本です。

＊『草の海 モンゴル奥地への旅』椎名 誠 著 (集英社)



～モンゴルは人の心にやさしい国であった～
『草の海』の後書きの冒頭の言葉です。旅好きな作家椎名誠さんのモンゴル旅行記です。広大な自然と大らかな人々の中で、椎名さんは何を見て、何を感じたのでしょうか。～生きている命がみんなそのことに一所懸命だ。人も動物も草も花もみんなてらいがなく生きることに真剣だ。モンゴルとはつまりそういう国だ～これも後書きの一節です。生きることに一所懸命・・・私たちが忘れてしまった大切なことかもしれません。

＊『チンギス・ハーンへの旅』高橋 貞雄 著 (集英社)

モンゴルの写真集です。美しい自然と純朴な人々の笑顔・・・。心が温まる写真集です。モンゴルの人が食べ終えた羊の骨の写真があります。肉片のひとつも残っていません。その横には日本人が食べ終えた骨の写真があります。あちこちに肉が残っています。モンゴル人は羊の血一滴も無駄にはしません。大切な収入源であり、また大切な食料源であるからです。たくさんの肉片がついた日本人が食べた羊の骨。恥ずかしい気持ちになります。本当の豊かさとは何なのか考えさせられる写真集です。多くの人に見て欲しい写真集です。



3年生の皆さんへ

＊3年生の最終返却日は2月20日(金)です。必ず返却日を守ってください。

現在、小論文用の図書の出出が多いのですが、全員2月20日(金)までには返却をすませてください。

＊後期日程用の貸出は実施していません。小論文対策用で資料が必要な場合は、学習室で利用してください。

＊本をなくした場合は、同一本の弁償となります。お気をつけください。

編集後記

毎日が瞬く間に過ぎていきます。こんな時こそ“平常心”が大切なのでしょう。三年生の皆さん、残りわずかとなりましたが、目標達成に向かってラストスパートです！頑張ってください。一・二年生の皆さんも、今から将来を見据えた読書をしてください。読書で心に残ったことは、必ず私たちに強くしてくれます。